

2021年度事業報告書

1 2021年度概括

(1) 地域活動に関するコーディネート事業

<相談対応>

- ・オンラインを活用し、コロナ下においても相談対応を継続し、156件（2020年度137件）の相談に対応した。また、感染拡大が落ち着いた時期には、現場訪問による相談も積極的に実施した。特に関係機関とのコーディネートなど、相談内容の実現に向けた伴走支援を重視し、多様な主体による協働事業の実施につなげた。具体的には、まちだハッピーマルシェ（ウェルシア薬局と福祉団体）、8050に関する地域情報交換会（高齢者支援センター、NPO、当事者）等などがある。

(2) 地域活動に関する情報収集及び発信事業

- ・ホームページでのコラム記事（「法人格何を選ぶ？ NPO法人、一般社団法人と新たな労働者協同組合を比べて」等）の掲載、サポートオフィス通信での特集記事（「助成金」、「学生の力の活かし方」）の掲載などサポートオフィスの知見の明文化と発信に注力した結果、記事から相談につながる事例が増加した。

(3) 地域活動を行う組織に対する基盤強化事業

<講座>

- ・50名規模の対面での講演会企画「私が動く、地域が変わる～今見つめ直す市民活動の価値と未来」（講師：山岡義典法政大学名誉教授）を開催。市内の活動団体が一堂に会する場となつた。86%が満足と回答し「活動を俯瞰して捉えることができた」という声があった。
- ・オンラインを積極的に活用し、「ファンドレイジング（資金獲得）」、「ファシリテーション」、「SDGs」、「広報」、「SNS」等ニーズに即した講座を28講座実施した。
- ・前述の28講座のうち「まちだづくりカレッジ」「ファシリテーション講座」のフォローアップ講座である「まちだづくりカレッジ同窓会」「ファシリテーション講座実践編」を通して受講者のコミュニティづくりを実施した。

<町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」>

- ・コロナ下においても新たな開催方法を模索し、市内の地域活動団体81団体が参加する実行委員会にて開催した。

- ・「まちカフェ！」オープニングイベントとして、新たに複数団体が協働して「オトパ（お父さん・お母さん、ともにおかえりなさいパーティ）inまちだ」及び「まちカフェ！マルシェ」を開催。「オトパ」8団体、「マルシェ」15団体による協働開催が実現した。
- ・参加団体実施報告アンケートでは、40%（昨年度20%）の団体が「協働による取り組みが生まれた」と回答し、昨年度より協働事業に取り組む団体が大幅に増加した。また、56%（昨年度50%）の団体がまちカフェ！に参加することで自団体に（ポジティブな）「変化があった」と回答した。

（4）人材育成事業

- ・2021年度より本格実施となった「学生おうえん隊」は、受け入れ団体5団体、参加学生10名を目標としていたが、受け入れ団体8団体、学生20名となった。学生が参加することにより、団体のスキルアップにつながった。また、学生が市民活動に関心を持つきっかけとなった。

（5）地域活動に関する調査研究事業

- ・当初、地区別懇談会の場にて、地域おうえんコーディネーターとともに地区協議会へ「地域の課題と資源について」ヒアリングを行い、各地区の実情を把握することを目標としていたが、新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い延期となつたため実施できなかった。
- ・公益化、基金設立など今後の団体運営の参考になる事例について市外中間支援などを対象にヒアリングを行つた。

（6）資金等調達支援事業

- ・助成金説明会の開催、助成金申請支援、助成金情報の発信を積極的に実施した。6団体にして助成金申請支援を実施して、4団体に助成金が決定した。
- ・町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」では活動場所やイベント実施等のマッチングを実施した。

（7）その他

- ・市民協働推進課以外の組織から企画等の運営サポート、講師などの業務を積極的に受託し、認知を広げるとともに自主財源を拡充した。

2 活動日数

2021年4月1日～2022年3月31日（12ヶ月、244営業日）

3 事業報告

(1) 地域活動に関するコーディネート事業

ア 相談対応【実施目標 年間100件程度→年間156件】

相談・来訪 156件（2020年度137件）

内訳（複数選択可）

事業相談50件、意見交換／情報交換43件、助成金相談／資金獲得5件、

WS等開催支援4件、設立相談13件、情報発信5件、社会貢献5件

その他33件

- ・事務所、アウトリーチでの相談対応に加えて新型コロナウイルス感染拡大の中でも、オンライン相談を活用し、緊急事態宣言下でも相談対応を継続した。
- ・相談内容の実現に向けた継続相談、伴走支援を重視し、助成金獲得や多様な主体による事業の実施につなげた。

イ テーマ別会議「まちだづくりサロン」・まちカフェ！実行委員会

【実施目標：10回、成果目標：協働事業1事業、連携コラボレーション5事例→実績：10回、

成果：協働事業2事業、連携コラボレーション3事例】

<まちだづくりサロン>

市民の地域活動や地域課題への関心を高めることを目的にSDGsをテーマにした地域活動事例の共有と対話のイベント「まちだづくりサロン」を3回実施。

<まちカフェ！実行委員会>

準備会1回、実行委員会3回、振り返り会1回、打ち上げ会1回を開催。

実行委員会において対話のプログラム、事務局によるマッチングと協働事業の運営支援を行うことにより協働事業を2事業（オープニングイベントにて開催したオトバ及びマルシェ）、団体同士のコラボレーション事業3事例が生まれた。

ウ 地域イベント等への参加 【目標年10回→年48回】

参加を通して、団体間の情報共有及び連携のきっかけをつくることができた。

わらしべワークプロジェクト定例会	7回
8050地域情報交換会（旧8050問題を考える会）	6回
まちだハッピーマルシェ	6回
NPOインターンシップラボシンポジウム実行委員会	8回
学生活動報告会「ガクマチEXPo」実行委員会	5回
町田市新型コロナワクチン接種オンライン予約サポート	4回
町田市みどり活用に向けた意見交換会	3回
その他イベント	9回

（2） 地域活動に関する情報収集及び発信事業

ア 広報誌の作成

【実施目標：発行年10回程度／毎号1,500部→年10回／各1,500部】

＜サポートオフィス通信概要＞

発行回数：10回発行（17号～26号）

体裁：A4、4ページ

発行部数：各1,500部

配布箇所：各号約250カ所へ配布

発行時期の主力事業について特集を組み、サポートオフィスの事業の周知と成果報告を目的として発行した。

＜各号内容＞

発行号	主な掲載内容
17号	第14回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」発協働プロジェクト「まちだ子どもアクション作戦会議」を開催しました。
18号	第15回町田市市民協働フェスティバル実行委員会準備会を開催しました。
19号	団体運営を応援するセミナーが始まりました！ 「まちだづくりカレッジ」「ファシリテーション基礎講座」

20号	団体訪問レポート みんなの居場所「ぼくはぼく」、町田・ワーカーズまちの縁がわ小山田桜台（ほっとスペースさくらさくら）、特定非営利活動法人相原JAO会／探求フリースクール・マチラボ
21号	「まちカフェ！」参加団体で、学生おうえん隊の受け入れがスタート
22号	「まちカフェ！」開催テーマが決定！
23号	地域活動団体×学生 ~世代を越えたつながりによる気づきで団体の活性化へ
24号	まちだづくりサロン特別編「私が動く、地域が変わる～ 今見つめ直す市民活動の価値と未来」を開催しました！
25号	助成金に関する説明会を実施しました。
26号	「まちカフェ！」発プロジェクトに学ぶ 学生の力を地域活動団体に活かすポイント

イ ホームページの運営及びSNS等を活用した情報発信

<ホームページ>

- ・ホームページ掲載総数：107

イベント告知 記事	イベント等 実施報告	団体訪問 レポート	コラム	ニュース	その他	合計
21	44	16	5	18	3	107

- ・ホームページに掲載した職員執筆コラムのテーマ

掲載月	コラムテーマ
4月	ゴールデインウィークに読みたいおすすめ2冊
5月	SDGs読んでみた、考えてみた、悩んでみた
9月	法人格何を選ぶ？ NPO法人、一般社団法人と新たな労働者協同組合を比べて
10月	パブリックコメント知っていますか？
2月	2/20（日）「町田市議会議員選挙・町田市長選挙」が実施されます

<SNS>

Facebook：フォロワー1,368件（前年度比 186件増）

Twitter：フォロー838件（前年度比 200件増）

Instagram：フォロワー802件（前年度比 277件増）

メルマガ：サポートオフィス通信発行、講座案内等を中心に発行 年15回発行

SNS：情報の拡散を目的とした広報

- これまで発信頻度が少なかった Twitter、Instagram の発信を強化した。特に Twitter については、サポートオフィスの日常業務などを新入職員の視点で伝える投稿を増やしたこと、フォロワー数をコンスタントに増やすことができた。

サポートオフィス通信：NPO／市民活動団体といったサポートオフィスが最も重視する対象への知見と情報の提供を目的とした広報

- 1面に写真を大きく掲載するなどアイキャッチとなる紙面構成を意識して作成した。
- 発行時期のニュースだけでなく、「助成金」、「学生の力の活かし方」といった知見提供を目的とした特集記事を作成した。

ホームページ：情報のストックを目的とした広報

- まちだづくりサロン特別編のテープ起こし記事の掲載、職員コラムなどサポートオフィスの知見をとりまとめてストックすることを意識して作成。相談対応時の資料として活用。

- 「まちカフェ！」ホームページの見直し

更新の際の操作性が悪く事務局での更新に時間がかかったこと、イベントや団体情報の検索性が悪かったことなどから「まちカフェ！」ホームページのコンテンツ管理システムをwordpressに変更し、大幅改修をした。

- 相談、講座における認知経路を分析及び効果の定期測定の仕組みづくり。

より適切な情報発信を行うために主として対面のイベントにおいて参加者の認知経路の分析を実施した。初参加の参加者は、「広報まちだ」「Instagram」が認知経路として多かった。2022年度以降も継続して認知経路の分析と情報発信の改善をすすめる。

(3) 地域活動を行う組織に対する基盤強化事業

ア 講座の実施【目標16回開催 → 実績21回開催】

—開催数内訳—

- ①団体の事業計画を策定する伴走型連続講座まちだづくりカレッジ5回

【実施目標：全5回×1回 成果目標：計画策定4団体

→実績：全5回×1回 成果：計画策定3団体】

- ②SDGsでお互い知ろう！つながろう1回

【実施目標：1回 成果目標：「まちカフェ！」参加団体の成果目標とSDGs連動

→実績：1回、成果：「まちカフェ！」実行委員会による SDGs をテーマとしたトークセッションの実施】

③ファンドレイジング講座3回、

【実施目標：全3回×1回 成果目標：ファンドレイジング実践2団体

→実績：全3回×1回、成果：ファンドレイジング実践3団体】

④その他

- ・まちだづくりカレッジ同窓会（活動報告会）1回
- ・Twitter & Instagram 相談会1回、動画講座1回、Zoom 講座3回
- ・「みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田」活動報告会1回
- ・イベント広報・チラシ制作はじめて講座1回、まちだづくりサロン（SDGs）3回
- ・まちだづくりサロン特別編シンポジウム「私が動く、地域が変わる～今見つめ直す市民活動の価値と未来」、助成金セミナー2回、読書会1回

*まちだづくりサロン3回は地域活動に関するコーディネート事業、ファシリテーション基礎講座4回は材育成事業として実施。

- ・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置を受け、昨年度に引き続きオンライン開催を強化した。オンライン会議の機能（ブレイクアウトルーム）を活用した対話を生むワークショップを取り入れたり、リアルの場とオンラインを組み合わせたハイブリット開催をしたりと各講座の質を上げる取り組みに注力した。
- ・団体の事業計画をつくる伴走型連続講座「まちだづくりカレッジ」に参加した団体同士のコミュニティ作成や活性化を実施するため、同窓会（活動報告会）開催やカレッジ受講生と卒業生限定のFacebook グループを作成し運用。コロナ下でも団体間交流や学び合いの場を実現した。
- ・「まちカフェ！」に参加する団体を中心に、組織運営のスキルアップを図る実践的な講座を実施。参加した団体から「初めてイベントチラシを作成した」「活動の様子をまとめた動画を作成できた」など、講座での学びを実践した成果が多く寄せられた。

イ 第15回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」事務局業務

【成果目標：参加団体の70%が「成果有」と回答、協働事業1事例、連携・コラボレーション事業5事例 → 実績：参加団体の56%が「成果有（変化があった）」と回答、協働事業2事例、連携・コラボレーション事業3事例】

<会議開催>全てオンラインで実施

準備会1回、実行委員会3回、振り返り会1回、打ち上げ会1回

<情報発信>

ホームページ：イベント情報、参加団体情報、実行委員会開催レポート掲載

SNS：Facebook投稿数143件、Twitter投稿数82件

メルマガ：実行委員会案内、報告等の内容を中心に発行 年18回発行

<本番>

オンライン及び市内各地の会場での分散開催で「まちカフェ！」を実施。

日 程：2021年11月27日（土）～12月12日（日）

会 場：オンライン・市内各地の会場

主 催：「まちカフェ！」実行委員会（参加団体とボランティアで構成）

共 催：町田市市民部市民協働推進課

テーマ：心は密に 想いはひとつ ～届けよう「まちカフェ！」から元気を～

<実績>

11月27日（土）オープニングイベント

- ・開会式 オープニング動画配信、市長挨拶
- ・オトパ in まちだ 町田市民フォーラム3階、4階
- ・「まちカフェ！」マルシェ ぽっぽ町田屋外広場

各団体イベント

- ・オンラインイベント16件、リアルイベント26件
- ・活動紹介動画制作・発表16団体、協働制作「まちカフェ！」紹介動画2件

来場者数

- ・オトパ40名（定員満員にて実施）
- ・「まちカフェ！」マルシェ 約1,000名
- ・各団体主催イベント 約1,404名
- ・おうえん広場（展示） 896名

実行委員会

- ・参加団体 81 団体
- ・おうえん隊 8 名
- ・学生おうえん隊 20 名

協力団体・個人

- ・広告協賛 10 団体・法人、個人 1 名
- ・場所提供的 3 団体
- ・ボランティア 4 名（おうえん隊以外の単発ボランティア）

- ・参加団体へのアンケート（48 団体が回答）において「参加により団体に変化があった」とした回答した団体の割合を成果とした。目標の 70% には達しなかったものの、56% が良い変化があったと回答。今後、学生おうえん隊の取り組みなどを通し、更なる団体の支援を実施したい。
- ・他団体との協働が生まれたと回答は 40% と、昨年より 20% 増加した。これは、実行委員会において「まちカフェ！」の意義として「協働」の重要性を説明する、「協働」を促すグループワークの実施した成果である。また今年度は、リアル会場で交流した団体が、当初予定になかったイベントを開催するなど、対面での交流のメリットが明らかになった。
- ・「まちカフェ！」に参加する団体を中心に、組織運営のスキルアップを図る実践的な講座を実施。参加団体向けアンケートの結果、オンラインツール活用についてすべてのツール（facebook、ホームページ、メール、google フォーム、動画、その他 SNS）でまちカフェ！参加前と比較して「良く活用している」と回答している割合が増加した。

（4）人材育成事業

ア おうえん隊（「まちカフェ！」ボランティア）

【成果目標：学生おうえん隊受け入れ団体 5 団体、学生おうえん隊 10 名】

→実績：学生おうえん隊受け入れ団体 8 団体、学生おうえん隊 20 名】

- ・受入れ団体にとっては、学生と共に活動をすることにより、オンラインスキルの向上や若い世代にも参加してもらえるイベントを実施するために広報媒体や申し込み方法の見直しなどを行い活動の活性化につながった。
- ・学生が市民活動に関心を持ち、活動するきっかけをつくることができた。参加学生向けアンケートでは、83% の学生が活動終了後も継続して何らかの形で団体に関わりたいと回答した。参加学生の 67% は「NPO や市民活動について見聞きしたことはあっても詳しく知らなかった」と回答しており、地域活動に関心のなかった層にアプローチすることができた。

イ ファシリテーション基礎講座

【実施目標：全3回×1回+夏季特別ゼミ1回 成果目標：修了者による実践4事例

→実績：4回 成果：修了者による実践2事例】

「参加者全員が安心して意見を言える場づくり」を実現するために必要なスキルの習得を目指す講座として実施。修了者による実践は、講座実施直後の聞き取りで確認できた事例が2事例となっている。今後、修了者を再度フォローすることで成果の確認を進めていく予定。

(5) 地域活動に関する調査研究事業

ア 市内で活動する団体に対する調査

市内活動団体ヒアリング 【目標10団体→実績11団体】

「サポートオフィス通信」NPOアンケート（31法人回答/192法人配布）

<ヒアリング>

- ・「まちカフェ！」を通じた成果と成果創出のポイントを整理し、報告書としてまとめた。
- ・調査から見えてきた次年度以降の取り組みを更に掘り下げるべく、3月17日に「まちカフェ！」を考える会を実施。Withコロナ時代における「まちカフェ！」の中長期的な在り方や発展の仕方を探る場となった。

<アンケート結果概要>

- ・活動においてサポートが必要を感じていることという設問は下記が多い結果となった。
①ボランティア等メンバーの拡大、②資金獲得、③他団体との連携や協働、④行政との連携や協働
- ・市内NPO法人のネットワークの必要性を感じている団体が多い。

イ 市外中間支援組織へのヒアリング

・市外中間支援組織ヒアリング 【目標5件→実績5件】

他地域の中間支援組織との連携強化によるサポートオフィスの支援力向上を目的に他自治体の中間支援組織へのヒアリング等を実施した。

<内容>

ヒアリング先	方法	ヒアリング内容
府中市民活動センター・プラツツ	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下での市民協働まつり開催方法についての事例共有 ・市民協働まつりでの学生等のボランティア活動についての意見交換
公益財団法人 相模原・町田大学 地域コンソーシアム	対面	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションポート横浜、まち×学生プロジェクト、さがまちコンソーシアム、サポートオフィスで学生事業に関する情報交換や事例のヒアリングを実施
八王子市民活動協議会	対面	<ul style="list-style-type: none"> ・八王子で25回開催実績のある「お父さんお帰りなさいパーティ」（略称オトパ）についてのヒアリングを実施 ・はちおうじNPOフェスティバル観察
7市市民活動情報連絡会	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩7市中間支援組織の連絡会に参加 ・コロナ下における市民協働まつり開催について情報共有を実施。 <p><参加団体名></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人小平市民活動ネットワーク（小平市民活動支援センターあすぴあ） ・府中市市民活動センター運営グループ（府中市市民活動センター・プラツツ） ・NPO法人八王子市民活動協議会（八王子市市民活動支援センター） ・NPO法人みたか市民協働ネットワーク（三鷹市市民協働センター） ・社会福祉法人西東京市社会福祉協議会（西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ）

		<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人調布市社会福祉協議会 (調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター) ・N P O法人ひの市民活動ネットワーク (ひの市民活動支援センター)
認定N P O法人アカツキ (福岡県N P O・ボランティアセンター運営団体)	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・「支援者の倫理と人権」というテーマでの意見交換を実施 ・行動規範を考えるにあたり、支援の際に気を付ける点等の事例を共有

- ・年度当初の計画において、地区別懇談会の場にて、地域おうえんコーディネーターとともに地区協議会へ「地域の課題と資源について」ヒアリングを行い、各地区の実情を把握することを目標としていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い開催が延期されたため 2022 年度に実施予定。
- ・当初計画で予定していた公益化、基金設立など今後の団体運営の参考になる事例のヒアリングは、全国コミュニティ財団協会による「地域の資金循環」をテーマとした助成事業の審査会に審査委員として参加することで公益化、基金設立に関する知見を収集した。

(6) 資金調達支援事業

ア 団体の資金調達支援 【目標 5 団体以上→実績 7 団体】

内訳：助成金応募支援 6 团体（助成金獲得 4 団体）

ファンドレイジング計画策定 3 団体（内 2 団体は上記助成金応募支援も実施）

イ 活動場所やイベント実施等のマッチング

各団体が円滑に活動できるように、地域で活動場所を提供してくれる事業者等とのマッチングや相乗効果をもたらせるイベント同士をつなげる取り組みを町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」で実施した。

(7) その他（市民協働推進課中間支援業務以外の受託業務）

ア 市民協働推進課以外の組織から企画等の運営サポート、講師などの業務を積極的に受託し、自主財源を拡充した。

<運営サポート・講師等実績>

	内容	種別	報酬の有無	担当
1	日本財団学生ボランティアセンター	講師	○	橋本空
2	宮崎県社協「Branch Meeting「福祉×Money」	講師	○	喜田亮子
3	ユニコムプラザさがみはら「オーサーズカフェ」	講師	○	喜田亮子、杉山久美子
4	名古屋大学「社会学実習」	講師	○	喜田亮子、橋本空
5	町田市社会福祉協議会 第五次町田市地域福祉活動計画			
5	じゃおサロン「SDGs って何だろう?」	講師	○	杉山久美子
6	NPOインターンシップラボ	運営サポート	○	橋本空
7	法政大学多摩ボランティアセンター勉強会	講師		橋本空
8	昭和薬科大学「おくすり・子育て相談カフェ」	運営サポート	○	サポートオフィス
9	昭和薬科大学「赤ちゃん親子がやってきた授業」	運営サポート	○	サポートオフィス
10	江戸川総合人生大学地域デザイン学部江戸川まちづくり学科	講師	○	喜田亮子
11	トヨタ財団セミナー「国際協働プロジェクトの倫理と論理を考える」	進行	○	喜田亮子
12	練馬区地域文化部協働推進課 令和3年度 「地域おこしプロジェクト」事業選定委員会	審査員	○	喜田亮子
13	全国コミュニティ財団協会「地域の資金循環とそれを担う組織・若手支援者を生み出す人材育成事業」	審査員	○	喜田亮子
14	立教大学ゼミ「学びを通した地域創生」	講師	○	喜田亮子、橋本空
15	法政大学「NPO論」	講師		橋本空
16	多摩大学ボランティアカフェ	講師		橋本空

17	了徳寺大学「人間関係実践演習」	講師		橋本空
18	横浜リハビリテーション専門学校「地域福祉論」	講師		橋本空
19	生涯学習センターお悩み解決ラボ	運営サポート	○	サポートオフィス
20	町田市市民生活安全課交通安全×プログラミング バッヂリ解決セミナー	運営サポート	○	サポートオフィス
21	子どもNPOセンター福岡	ヒアリング対応	○	喜田亮子

イ 法人運営

- ・一般財団法人非営利組織評価センターの実施する「ベーシックガバナンスチェック」に申請しすべての項目で基準を満たしているという評価を得た。
- ・サポートオフィス賛助会員制度の検討については、中期計画策定の議論の中で、現状では優先順位が高くないと判断した。
- ・中期の事業計画の策定については、コロナ下における地区別懇談会の延期等に伴い、市民協働推進課との議論に時間要したため、完成を延期。2022年度中の完成を目指す。

以上